

令和4年度 江戸川区立二之江第二小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	進んで行く二小の子 ◎思いやりのある子 ○やりぬく子 ○元気な子 ◎考える子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	笑顔があふれ、活力に満ちた明るい学校 子供たちに夢と希望を抱かせ、自立する力を育てる学校 学ぶことの意義が実感できる教育環境を整え、特色ある教育活動を展開する学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt; 特別支援巡回拠点校として、特別支援教育に関する専門的知識・技能をもつ教員が、担任・専科教員と情報共有しながら、助言等行うことができた。その結果、担任や専科教員も、より個に応じた適切な支援を進めることができた。また、関係機関との連携もよりスムーズなものとなった。</p> <p>&lt;課題&gt; 学力の向上。基礎基本の確かな習熟を積み重ねていく。その上で、問題解決型の授業実践を通し、児童の思考力、判断力、表現力を高めていく。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・理科を始めとする、各教科の「問題解決型」の授業実践。	・補習による個に応じた指導 ・全国学力学習状況調査・学力の向上を図るための調査に基づいたPDCAの実践 ・研究発表会(東京都小学校理科研究会との連携)	・全国学力調査で昨年度の区平均以上 ・都学力調査で昨年度の区平均以上 ・分かる授業の充実(児童アンケート80%以上)	B	C	・全国学力調査では国語・算数ともに全国平均10点近く下回った。 ・問題解決型の学習スタイルを定着させるよう、学習指導に関するOJTを定期的実施した。	B	・習熟学習を繰り返していくことで力をつけさせてほしいです。 ・全国平均をひとつの指標(目標)として、学力向上を期待しております。	・基礎基本の徹底を行う。つまづき箇所は、必要に応じて、前学年に遡って習熟する。 ・低学年も引き続き習熟度別算数を実施する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・読書ノートの活用推進 ・読書ノートの指導計画の作成 ・読書記録カードの活用 ・貸し出し冊数増加のための教師の声掛け ・葛西図書館との連携	・教員アンケートによる、指導の充実80%以上 ・児童アンケートによる、読書意欲の向上80%以上 ・貸し出し冊数の昨年度	C	B	朝読書など、集中して取り組んでいる姿がみられる。 ・年間計画に沿った実施が十分ではない時期があった。図書担当や教務主任中心に進行管理を進めていく。	B	・読書の習慣付けが進んでいると感じています。地域保護者のサポート(「え、ほんの会」)も素晴らしいです。	・読書を通じた探究的な活動が、年間計画通りに進んでいるか、読書担当や教務主任を中心に、進捗を管理していく。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・教員・児童外遊びの奨励 ・持久走記録会に向けての取組	・すすんで校庭で外遊びをしている(児童アンケート80%以上) ・体力テスト全国平均を上回る。 ・体育の主活動時間20分を確保	B	B	・休み時間は外で遊ぶ姿がたくさんみられる。しかし一方で教室にこもり、タブレットに没頭する児童もいる。外遊びの励行を指導していく。	B	・コロナもありますが、やはり、外で元気に遊んで、体力を高めてもらいたいです。	・主運動の時間を20分以上とり、一単位時間の運動力を確保する。 ・体力テスト結果の分析に基づいた授業づくり。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・担任T1、ALTがT2という授業スタイルの実践	・教員アンケート指導の充実80%以上	B	B	年間70以上の実施する。高学年は、ALTのいる授業も担任が原則T1とする。	B	国際化社会においては、小学校のうちから英語学習が定着してきたようです。中学校との連携も必要になります。	・引き続き、ALTをT2にしたスタイルで授業実践していく。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・安全教室、セーフティ教室の実施 ・児童アンケート ・二之江 タブレットルール ・SNS東京ノート ・SCによる5年生全員面接 ・SOSの出し方に関する教育	・いじめ継続案件0 ・保護者アンケートによる、生活習慣や情報モラル意識の向上80%以上 ・SNS学校ルール、タブレット学校ルール、家庭ルールの達成率90%(児童アンケート)	B	B	・いじめ継続案件は、完全な解決とまではいかないものの、いじめ防止対策委員会で対応を協議し、組織的な対応を行った。また、当該保護者とも連携し、学校の対応策を説明したことにより、事態は収束しつつある。教員シートで各教員のいじめ防止取組についても振り返りを行う。	B	・いじめは、どこでも起こりえると思いますが、校長先生はじめ、教職員みなさんで対応してくださっていることがわかりました。	・いじめ対策防止委員会をはじめ、教職員・保護者・区教委で情報共有しながら、組織的な対応を進めていく。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・教職員向け特別支援研修会(年5回) ・臨床発達心理士によるアセスメント(年6回) ・巡回指導教員による研修会の実施、情報交換	・教職員向け特別支援研修会(年5回) ・臨床発達心理士によるアセスメント(年6回) ・特別支援教育の充実80%(教員アンケート)	C	B	・巡回指導やSC、専門員らと担任同士でコミュニケーションを密に取っている。 ・巡回指導教員が講師となる校内研修会を学期に1度行っている。	B	・先生方の情報機器の研修も定期的に行っていることがわかりました。	・巡回教員とコーディネーター、担任との情報交換を引き続き密に行っていく。 ・巡回指導教員を講師とする校内研修会を学期に1度開催する。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・ICT補習(年6回) ・教員ICT研修(年3回) ・ICT活用授業の強化	・情報教育の充実80%(教員アンケート) ・タブレットの有効活用80%(児童アンケート)	B	C	・学校SNSルール、家庭ルールの徹底の投げかけを行った。また「えどたぶ」ルールの確認も行った。 ・高学年中心にSNSのトラブルが見えられた。家庭とも連携し、継続的な指導を行う。	B	タブレットが貸与され先生方のICTに関する知識が求められるようになりました。大変ですがよろしくお願ひします。	・校内研修を引き続き定期的に行い情報モラル教育も組織的に行う。 ・また、「江戸タブレット」「東京都SNSノート」の家庭ルール策定等保護者にも理解・協力を呼び掛ける。
特色ある教育の展開	地域との連携強化	・蓮田での蓮植え・蓮堀活動の実施	・地域の方との事前打ち合わせ ・進捗状況の報告連絡相談	・地域との連携強化80%以上(教員アンケート)	B	B	・蓮田愛育会会長に、適宜ご助言をいただきながら、蓮田の運営を進めている。今年度も無事収穫することができた。 ・3年だけでなく、他学年も関わっていけるよう、計画を立案中である。	B	・コロナで参加できていませんが、子供たちは楽しく取組んでいたことと思います。	・蓮堀の体験に関わる学年を広げ、より多くの地域の方への感謝の念を実感させていく。